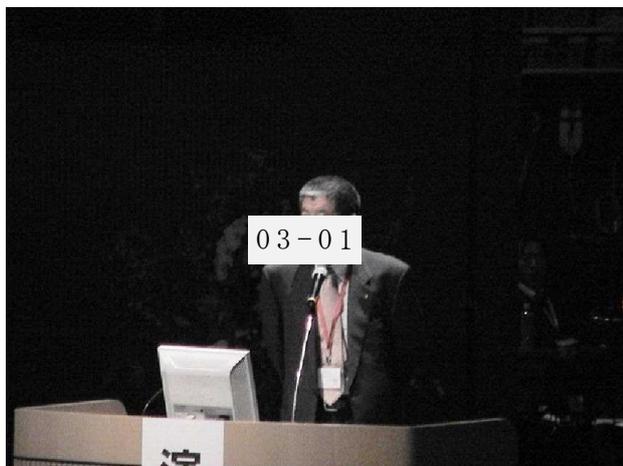


# 報告「岐阜県における『いのちの授業』概要報告」

村田 憲彦



平成19年4月から7月にかけて、当獣医師会では県内羽島市教育委員会と連携し、同市内の正木小学校及び羽島中学校に於いて訪問授業「いのちの授業」を実施した。今回、我々の手作りによる「いのちの授業」の取組みについてその概要を報告します。

獣医師の仕事は、ペットのお医者さんに代表されますが、産業動物関係、公衆衛生関係、製薬動物実験関係、野生動物保護関係、動物検疫関係、獣医学大学及び各種研究機関など広範な職域で、いづれも動物・人の生命、健康を守るために働いております。



平成18年当時、当県はもとより、全国的に、いじめや自殺、青少年犯罪が多発する中、命の尊さを考えてもらおうと我々獣医師会の会員が、各職域の中で取り組んでいる日常の仕事を紹介し、如何に動物や人の命と向き合っているかを語り、人の生活が如何に命の支え合いの上に成り立っている

か、命への感謝や畏敬の念を感じ取ってもらい、命を大切にしてもらいたいと願って企画し、行ったものである。

各職域の会員代表により企画委員会を立ちあげ、それぞれのセクションから講師を選任し、教育現場で総合学習に力を入れている、羽島市正木小学校と共同で、7のシリーズのストーリーを作り、羽島市立正木小学校6年生・羽島中学校3年生を対象に出前授業を行った。

その結果、受講した児童生徒は大いに興味を示し、学校関係者にも喜んで頂けた。また、マスコミや議会でも取り上げられるなど、「命に関する教育」としては切り口が斬新であるとして各界から好評を頂いた。我々は今後県下各地に広めていき、獣医師の新たな社会貢献の一端にしたいと考えている。

## 1 第1回「人と動物の絆」(動物病院)

動物がもたらしてくれる豊かな生活を支えるために、動物病院の獣医師は動物たちの病気を治療している。日々命と向き合う診療経験に基き、動物の痛みを如何に感じとるか、動物が治らない病気になった時どんな苦労があるのか、動物病院獣医師の仕事を通して、自らの苦悩を語り、いのちとは何かを訴えた。



## 2 第2回「保健所に行くとなんになるの!？」(保健所獣医師)

保健所は仕事の一部として、人の都合により飼うことができなくなったイヌとネコを引取っているが、そこでは最後まで飼育することはできない。可愛らしいイヌや

ネコは何も悪くない。そんなイヌやネコの命と真剣に向き合い、里親探しなどに取り組んでいる獣医師の話である。

### 3 第3回「おいしいたべものができるまで」～人が育てた肉と卵と牛乳～

(県家畜保健衛生所・産業動物診療獣医師)

毎日みんながなにげなく食べている肉や卵や牛乳は、農家の人たちが休みもなく、愛情を一杯注いで育てた家畜から生産される。その家畜が伝染病などにならぬよう、又家畜の病気を治し、さらに家畜の改良増殖・生命の誕生に立ち会う獣医師の仕事を通して「命」を考えてみる。

### 4 第4回「食べ物の安心と安全」(食肉衛生検査所)

農家で大切に育てられた家畜は食肉処理場に送られ、解体処理される。その畜産物が安全であるかを検査し、食べ物に隠れている病気や事故の原因を紹介し、皆さんの知らない所で、その危険を取り除く仕事をしている「人の健康を守る獣医師」の話である。毎日の生活の中では、食べ物が「安全で安心」であることが当たり前のように思われている。それには、そのような仕組みがあるからである。

### 5 第5回「薬は動物の力を借りている？」(薬品開発検査会社)

この日本に生まれて、一度も薬を使用したことのない人は誰一人いない。風邪、頭痛など日常生活で体験する病気を始め、結核、うつ病、癌などなど専門性の高い疾病を含め医薬品は人の医療、健康生活に欠かせない存在で、世界有数の長寿国日本に大きな貢献を果たしてきた。

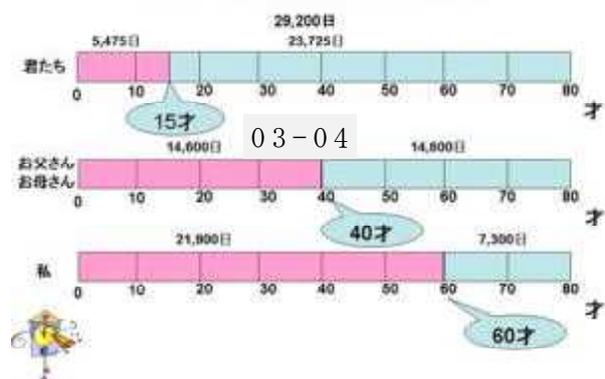
しかし、日頃こうして当たり前に使っている医薬品の開発には、たくさんの動物の命を犠牲にしている事実はほとんど知られていない。薬が開発される過程で動物がどのような形で使われ、役割を果たしているのか、人の健康と命を守るためにこうした分野でも動物の命が人の命の代わりをしている現状があることを理解してほしい。

また、人の平均寿命を80歳とすると、29,200日しか生きられない、15歳の中学生は、後23,725日しか生きられない、せつかく親からもらった命を大切に有意義に生きてほしい。

### 6 第6回「野生の命が教えてくれるもの」(動物病院開業)

私たち人間は他の動物たちの命を犠牲に

## 命とは時間である



して生活をしている。そんな人間の行為により傷ついてしまった野生の鳥や動物を治療することも我々獣医師の仕事である。

自然の命を守るために大切なことは2つあり、①野生の動物の生態を知ること、②何故動物たちが傷ついたか原因を調べることである。野生の生き物を助けることを通して、自然環境いや地球環境の保全を訴えている獣医師の話である。

### 7 第7回「獣医さんになるための勉強」(岐阜大学獣医学課程教員、獣医学生)

獣医学を教えている教員と、勉学中の学生が掛け合いで獣医師への希望と役割、勉学の矛盾と対応等について話し、命を大事にしようと語りかけた。

先ず教員から獣医師は人気の高い職業であることを説明。獣医師になるための勉強は基礎・応用・臨床獣医学などたくさんあり、実践的学問もあるので6年制になっており、国家試験に合格する必要がある。

次いで学生の立場から話した。骨格標本での体の構造を勉強、マウスの解剖、手術の練習等いろいろな実習を行う。動物の命を救うべき獣医師になるために、その中で動物を傷つけたり犠牲にしたりする。この獣医学生が抱える矛盾はどうしたらいいのか。なりたい職業を選んだ以上越えなければならない。犠牲を無駄にしない。動物から学べることは何でも全て学ぼう。同時に犠牲になる動物の痛みを和らげることも忘れてはならない。獣医師の教員及び獣医師になろうとする学生の話である。

### 8 授業の反応

小学生は、異質な授業とて最初は面食らっていたが、進むにつれ理解度も高まり、確かな手ごたえを感じ取れた。

中学生は、特有の無関心さが見え、嫌な

場面になると顔を背けたりして、果たして聞いてくれているのか心配したが、授業最後の生徒代表による、お礼の言葉を聞き、それなりに聞いてくれていたと安心した。

学校側の計らいで、保護者・教育大生・報道関係者・出版社の方々にも聴講頂いた。マスコミも新聞・TV・ラジオで取り上げて頂き、好評であった。

総じて、各界で大きな反応があった、教育とりわけ命にかかわる青少年の健全育成の課題が、いかに社会的関心事であるかが伺われた。



**お礼のこたば** 羽島中学校3年生生徒代表

私たち羽島中学校3年生は、7月に渡る「いのちの授業」で、たくさんの先生方のお話をうかがい、いろいろな角度から「いのち」について考えることが出来ました。まず、「人と動物のさすずな目」に向け、人も動物も幸せを共有することの大切さを学ぶことから始まり、動物の「いのち」も人の「いのち」と同じくらい大切だと思えることを感じました。また、普段、私達が当たり前のように食べている食べ物、それは、本来の寿命まで生きることなく、途中で処理されてしまう動物の「いのち」をいただいているということです。そして、食べ物に隠れた病気を取り除く仕事をされている方々のおかげだということに重く感じました。さらに、生物界の中で、人は動物や植物よりも多くの能力を持ち、地球上で最も優位な立場であることも理解した上で、自然の「いのち」を守るために私たちにできることを考えさせられました。

このように7月に渡り、お話をうかがい、大切なことに気が付きました。それは、人は自然に生かされて生きていけるように生きて、人が地球上で最も優位な立場であるということは、その分、人は「地球上に存在する全ての生物の共生・共存を図る」という使命や役割があるということです。人は自然の生態を守る努力ができます。しかし、逆に人の勝手な行動により自然の生態を乱すことも簡単にできてしまいます。「いのちの授業」を通して自分自身の今までの行動を見直し、これからの生活へつなげていきたいと思えます。

私たち3年生は、様々な分野で活躍されている獣医師の方々の貴重なお話を聞かせていただき、「いのち」を大切にすると同時に、「いのち」への感謝と敬意の念を抱くことができたと思います。今の自分とこれから自分を真面目に考え、そして夏休みに「いのちの授業」を通して学んだことや考えたことを新聞や作文にしてまとめたいと思います。このたびは、お忙しい中、誠にありがとうございました。

03-05

**いのちの授業「12歳の提言」**  
～自分の生き方を探ろう～まとめの会

- 1組: 生かされている私たち、薬の矛盾  
見学先—日本バイオリサーチセンター、エーザイ博物館  
要旨—人間は誰でも長生きしたい、病気になった時、昔は古い祈禱をしていた。薬ができてから平均寿命が大きく伸びた。  
薬には医療に使う薬—医者が処方する。  
一般に使う薬—03-07 ことができる。薬の出来るまでを調べ、薬の...  
2組: つながりの中で生きている私たち、食べ物と人  
見学先—岐阜県食肉検査所、羽島市内酪農場  
要旨—「食の安全と食べ物の流れ」を調べた。  
私達は色々つながりの中で生きている。生き物は加工—安全安心を検査—流通—お店—私達の口へ、と流れている。私達が食べるまでに多くの人の努力や動物の命が犠牲になっている、これに感謝し、いただきます！こちそうさま！

## 9 小学校での取り組み

1 学期は、獣医師の話聞く。

2 学期は、クラスごとにテーマを決め、図書館、インターネット、社会見学を行い、まとめる。

3 学期は、在校生、父兄に、まとめの会で発表する。

## 10 いのちの授業「12歳の提言」～自分の生き方を探ろう～まとめの会

3月に小学校において、6年生が1年間にわたって、探求した結果を「まとめの会」発表した。この発表を聞いて、何よりも感銘したのは、私たちが「いのち」について授業したことから、こんなに幅広く・奥深く・見て・調べて・まとめた、ということでした。

子供さんたちの好奇心・探究心・行動はなんとすばらしいものだと実感しました。

私たちが投げた「いのち」は小さい石であったが、それを受け止めた子供たちは、大きな宝物へと成長させたのだと思います。

## 11 中学校での取り組み

3年生なので、話を聞き、「夏に挑む」自由課題として、個々に作文等にまとめる。

**いのちの授業「12歳の提言」**  
～自分の生き方を探ろう～まとめの会

- 3組: いのちをあやつっている私達、動物と人のつながり  
見学先—岐阜市畜産センター、岐阜市畜大センター、羽島市内酪農場  
要旨—私達は生活をするために、狩から家畜を飼うように進化してきた。人間は今の命を自分たちの都合の良いように、あやつってきた。03-08 物たちに感謝しながら、共生していかなければなら...  
4組: いのちを守る努力が必要な私達、奇跡の誕生  
見学先—岐阜市畜産センター、羽島市内酪農場  
要旨—私達はお母さんの卵1個に、お父さんの3億の精子のうちの1つが受精し、母のお腹の中で愛情に包まれ育ち誕生した、奇跡の人間である。この奇跡の命を大切にしていかなければならないし、世界中の不幸な子供たちのために何かしてあげたい。ペットボトルのキャップを52000個集め、ユニセフに寄付した。

**いのちの授業「12歳の提言」**  
～自分の生き方を探ろう～まとめの会

- 5組: 自分勝手にバランスを崩してきた私達、野生の動物から学ぶ  
見学先—岐阜大学野鳥センター、岐阜市畜産センター  
03-09  
要旨—人間は生命のピラミッド(生態系ピラミッド)の最頂点に立っている。しかし、今人間の勝手さで、それが崩れかけ、自らの生命をも脅かしている。私達は環境を悪化させないように、生活態度を換え、自然との共存共生を考えなくてはならないと思う。

## 12 その後の取組み

小学校・中学校とも、好評であったため、3年間を1クールとして、授業の要請があ

った。当会もそれを受け3年間実施した。平成21年度後半から県教育委員会を通して県内全域で、試験的に実施したところ好評であったため、平成22年度から県下全域で実施している。

また、平成22年度当初、日本郵便事業株式会社が募集していた、動物愛護寄付金配分事業に応募し、過去の取組みが評価され、採択された。この助成金を基に視聴覚機器等を県下5支部に配備し、各支部の会員が精力的に取り組んでいる。

### 13 おわりに

「命」はわれわれ獣医師の究極的のテーマである。われわれが動けば教育界も、子供たちも、そして社会も応えてくれる。

・今回の授業を、獣医師の新たな社会貢献の一環として考えてきた。これからの新しい時代に即応した獣医師活動を展開して行きたい。

そして、地域に根ざした新しいテーマを発信できる地方獣医師会でありたい。

(社団法人岐阜県獣医師会会長)

